

## 研 究 結 果 報 告 書

所属 同済大学  
役職 教授  
氏名 李 宇玲

### 【研究テーマ】

古代日本文学における中国故事の受容（9-12世紀）

### 【研究結果】

本研究は、古代日本文学における「中国故事」の受容を考察し、日中文化交流史の新たな一面を解き明かすものである。一年半の研究期間を経て、以下のような成果を得ることができた。

「中国故事」とは、中国の古典籍に書かれていた逸話をさし、古くから書物を媒介に日本に伝わり、人々の間で一種の漢学教養となり、文学作品の素材にしばしば活用された。従来の研究では、その受容・摂取は直接原典によるものだと捉えられてきた。本研究ではこの通説を問い直し、まず中国四大美人のひとりである「王昭君」の故事に焦点を当て、古代日本における受容の特異性について考察した。成果の一部として、論文「王昭君と『長安日』」を『国語と国文学』誌（二〇二四年五月号）に発表した。

つぎに、平安朝の仮名文学において「王昭君」の故事はどのように受容されたかを分析し、とりわけ『源氏物語』須磨巻の引用に、唐代詩人白居易の江州左遷の経歴・作品が大きく取り込まれていたことを明らかにした。従来の源氏物語研究に見られないこの新説について、目下論文を執筆中である。

さらに、本研究では「王昭君」のような明示された故事のほか、仮名文学における「明示されない故事の引用」についても論考した。個々の作品に埋め込まれていた故事の暗号を読み解く作業は、新しい発見につながった。その成果の一部を、「平安朝廷暦期遣唐使と中唐文学」と題する研究報告（二〇二三年四月、於上海師範大学国際比較文学フォーラム）にまとめた。

以上のように、本研究を通して、中国故事の受容をめぐる従来通説を見直すことができ、平安文学の研究における新たな知見を指摘した。一連の研究の集大成として、著書『中国故事と平安朝文学』（仮題）の出版を来年度に予定している。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表(題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

平安朝廷暦期遣唐使と中唐文学・李宇玲・国際比較文学フォーラム・二〇二四年四月八日・上海師範大学

論文(題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

王昭君と「長安日」・李宇玲・『国語と国文学』・二〇二四年五月号

書籍(題名・著者名・出版社・発行時期等)